

重点作業

「一果入魂」こだわりを持った生産管理に努めよう

作業1 摘果 (果実の少ない樹は粗摘果を控え、後期の仕上げ摘果を中心に行ないましょう。)

品種	時期
極早生・早生	7月上旬
中生・普通温州	7月中旬
※小玉果、裾なり果、内なり果、傷果、奇形果、病害虫の被害果などが摘果対象です。 ※高糖系でも、着果過多樹は樹幹内部の摘果を行う。	

品種	時期	ポイント
宮内伊予柑	7月上旬 (早めに)	葉数 100 枚に 1 果程度に摘果
太田ポンカン		
デコポン		
せとみ		
*大玉生産のため早期摘果を心がける *葉陰、内なりの果実は見落としやすいので注意する		

※着果量の多い樹は「早く・強く・速く」取り組もう。

作業2 病害虫防除

黒点病の薬剤は果実の表面を覆う「保護剤」で降雨および紫外線による分解で効果が低下してきます。一度散布してからの積算降雨量が、200^{mm} (晴天続きでも一ヶ月) までに再散布 (早めの再散布を) をしましょう。

時期	病害虫	防除薬剤
7月上中旬	黒点病 (3回目)	エムダイファー水和剤 600倍
	樹勢強化	スイカル (カルシウム剤) 500倍
7月下旬	(株元散布) ゴマダラカミキリの産卵防止	モスピラン顆粒水溶剤 200倍
	黒点病 (4回目)	ジマンダイセン水和剤 400~600倍
	アザミウマ類・ミカンサビダニ	※中晩柑は600倍で使用 アグリメック 2,000倍
	ミカンバエ成虫	キラップJ水和剤 3,000倍

※密植園、日当たりの悪い園、昨年ミカンバエ発生園はキラップJ水和剤散布。

作業3 苗木の管理

- 灌 水…1樹当たり10リットル灌水する
- 芽かぎ…1節当たり強い芽を1本と弱い芽を1~2本残して他は間引く
- 施 肥…7月上旬 (追肥)
 - ・1年生: 柑橘有機配合1号約70g/樹
 - ・2年生: 柑橘有機配合1号約90g/樹
- エカキムシ ダントツ水溶剤 20倍 (樹幹散布)
- 緑化促進 尿素 500倍

作業4 タイベックマルチの被覆

着色促進・糖度アップを目的に、マルチ被覆に取り組もう!

品種	被覆時期	事前準備
極早生 (日南姫含む)	被覆してない園は早急に (7月上旬)	※排水対策 (溝切り、溝上げ)
早生	傾斜地 (7月中旬) 水田転換園 (7月上旬)	
中生・大津	水田転換園 (7月中旬)	
普通温州・高糖系	傾斜地 (8月中旬)、水田転換園 (7月中旬)	※除草・園内の整地

作業5 フィガロンによる熟期促進（1回目）

品種	散布時期	使用倍率
極早生・早生	満開後60日（7月中旬）	2,000倍
普通・高糖系	満開後70日（7月下旬）	

作業6 夏季せん定の実施

2～3年生枝で、太さは鉛筆大のものを剪定しましょう。
 時期・・・7月に入ったら実施し、20日までには完了させましょう。
 （除葉率・・・青島30～40%） 剪定時に果実は全て摘果する
 ※乾燥が続くようなら灌水してください。

落葉果樹

	病害虫	防除薬剤	重点管理
モモ	黒星病 シンクイムシ	トップジンM水和剤 1,000倍 モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍	
西条柿	アブラムシ 炭疽病、落葉病	コテツフロアブル 2,000倍 ジマンダイセン水和剤 600倍	仕上げ摘果…生理落果の終了する7月上旬～中旬に行う
キウイ	軟腐病	フロンサイドSC 2,000倍	摘芯…結果部から10節くらいの先端部で行う
ウメ	カイガラムシ	スプラサイド乳剤 1,500倍	夏肥（7月下旬） 年間施肥量の30%

野菜

※キウイの防除には必ず展着剤を加用散布する

	病害虫	使用薬剤	使用倍率	収穫前日数	使用回数
キュウリ	うどんこ病	ダコニール 1000	1,000倍	前日	8回
	べと病				
	アブラムシ	ダントツ水溶剤	4,000倍	前日	3回
ナス	テントウムシダマシ	ダントツ水溶剤	4,000倍	前日	3回
	チャノホコリダニ	コテツフロアブル	2,000倍	前日	4回
トマト	アブラムシ	ダントツ水溶剤	2,000倍	前日	3回
スイカ			4,000倍		

水稻

病害虫防除

コシヒカリで7月上旬にトビイロウンカ、下旬に ヨブノメイガ、紋枯病の発生が見られるときは防除を行って下さい。防除剤は栽培暦を参照して下さい。

ひとめばれで7月中旬にトビイロウンカ、8月上旬に ヨブノメイガ、紋枯病の発生が見られるときは防除を行って下さい。防除剤は栽培暦を参照して下さい

8月上旬カメムシ防除（コシヒカリ）の1回目を穂揃期に行ってください。防除剤は栽培暦を参照して下さい。

農薬の飛散に十分注意してください！

◎営農相談フリーダイヤル 0120-082722